

心と心、笑顔のリレー



院長インタビュー

地域にとってなくてはならない病院へ

地域の中核病院として、その役割を果たす



今号の表紙

蛇が島越しの立山連峰

氷見は海越しに3,000m級の山々を望める日本唯一の場所。年末年始は美しい日の出の瞬間を狙う県内外のカメラマンで賑わいます。

写真提供：(公社)とやま観光推進機構



連携室
VOICE

たすきちゃん
インタビュー

地域住民の方や関係機関との繋がりを大切に

地域へ飛び出す 地域とつながる

第3回 医療福祉支援センター
入退院支援室



Dr.の休日
坂東外科部長



社会福祉法人 済生会支部
富山県済生会

富山県済生会富山病院
<http://www.saiseikai-toyama.jp/>

〒931-8533 富山市楠木33番地1
TEL 076(437)1111 FAX 076(437)1122
医療福祉支援センター
TEL 076(437)1120 FAX 076(437)1131





院長インタビュー

地域にとって なくてはならない 病院へ

～地域の中核病院として、
その役割を果たす～

富山県済生会富山病院
院長 井上 博

「小粒でもキラリと光る済生会富山病院」を目指して4年。その間の取り組みと患者さんに対する思いを語っていただきました。

Q 院長に就任されて4年目に入りましたが、今までの思いや取り組みなどをお聞かせください。

なんとか地元の皆様に認めてもらいたい

済生会は全国に390の病院や施設を持ち、保健医療福祉の複合体としては日本一の組織なのですが、富山県民には、なんとなく馴染みが薄い印象があります。院長に就任してからは、「なんとか地元の皆様に認めてもらいたい」という思いがずっとありました。取り組みとしては、まず1つ目に、診療科の先生方の人数を増やしました。特に麻酔科の常勤の先生が2人体制になり、緊急手術にも対応しやすくなりました。その他、内科の医師も増え、さらに当院を基幹型とする研修医が、今年

は合計4人獲得することができ、若い先生方の教育に力をいれています。

2つ目は、訪問看護ステーションの設置。今まで9年間ほど休止状態だったものを、地域においても看護を推進したいと思い、ステーションとして復活させることができました。

3つ目は、地域包括ケア病棟の設置です。国は要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステム構築を推進しています。地域包括ケア病棟では、患者さんが安心して自宅へ退院できるように、医師、看護師、リハビリスタッフなどの多職種がサポートし、患者さんの自宅復帰を支援しています。

4つ目は、北日本新聞の「ほっとホスピタル」の連載を開



始しました。地域の皆様に病気に関係した情報を提供することで、地域の病院としての評価が上がってきているのでは

Special Interview

ないかと思えます。就任当初は、「小粒でもキラリと光る済生会富山病院」を目標としていましたが、4年間で粒もだいぶ大きくなってきたのではないのでしょうか。

Q 2025年に超高齢化社会を迎えます。当院が果たす役割はどのようなものでしょうか？

地域のかかりつけの先生方と協力して患者さんを診ていく

当院は富山市の東北部にあつて、住民の方の年齢構成を考えると若い人が比較的少なく、高齢の患者さんが多いです。そのため、高齢者の方に重きをおいた診療をしています。悪性腫瘍は、かなりの部分は健診等の早期発見で、ある程度治るようになってきました。その次に皆さんが困ることとしては、血管が絡んだ病気、脳卒中、心臓病だと思います。それからロコモティブシンドローム（骨や関節、筋肉な



どの体を動かす運動器の機能が低下し、要介護や寝たきりになる危険が高い状態）の整形外科領域の病気が高齢化社会になれば、ますます増えてくるでしょう。当院は脳卒中、循環器等の血管病に関する領域、それから整形外科領域に力を入れているので、そういう意味では地域にとつてなくてはならない病院であると思っています。

今は、地域の基幹病院とかがりつけの先生方が連携して、地域で患者さんを診る時代で

す。当院も地域医療の中核病院として、その役割を果たすため、現在、地域医療支援病院の認定を目指して取り組んでいます。しかし、地域医療支援病院の認定を得ることが目的ではなくて、地域医療支援病院となつて、開放型病床（かかりつけ医と当院の医師が共同して患者さんの治療を行える病床）を設置し、地域のかかりつけの先生方と協力して、地域で特に高齢の患者さんたちを診ていく体制を整えています。地域医療支援病院として地域の先生方との地域連携を推進していきたいと思っています。

Q 済生会について

済生会は明治44年に明治天皇が創設された歴史ある病院で、グループ全体の職員数は約6万人です。また、全国に80の病院があり、経済的に困窮している患者を対象に、無料低額診療事業を実施しています。

また、来年2月に、毎年開催

されている済生会学会と総会が、富山県で初めて行われることになりました。全国から約2,400人の職員が富山の地に集まります。今回の学会テーマは「未来へ続く済生の道へ地域に寄り添う医療と福祉の提供」です。職員一丸となつて準備に邁進しており、成功に終わることを期待しています。



PROFILE

院長プロフィール

出身地 愛知県
専門 循環器内科（不整脈）
趣味 読書（歴史）



地域へ飛び出す 地域とつながる

「在宅・施設で行える

退院後訪問指導について」

皮膚・排泄ケア認定看護師 近村 厚子

医療と介護の需要がさらに増加していく中で、在宅と外来、入院の看護が切れ目なく継続し、さらに充実できるように支援体制作りを行っています。その一環として、退院後1か月以内に、医師の指示により、当院の看護師が自宅や施設に出向き療養上の指導等を行う「退院後訪問指導」を行っています。退院直後の不安な時期に、入院中患者さんに関わっていた看護師が訪問することで、患者さんや家族、ケアするスタッフの方の安心・安全に繋がっていると思います。また、実際に「自宅や施設に伺うことで、より現実に即した指導・援助を意識出来るようになり、生活の基本に関わる暮らしに合った生活指導を行うことが出来るようになります。看守られる側も看守る側も「WinWin」ケアに繋げることが出来るよう、これからも取り組んでいきたいと思っています。



「退院前訪問の紹介」

リハビリテーション科 理学療法士 織田 洋輔

退院後に安全で快適な在宅生活を送っていただけるように、当院では必要に応じて退院前訪問を実施しています。リハビリスタッフ、看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、施業者等で実際に「自宅を訪問し、患者さんの病状に合わせた環境整備を支援させていただきます。専門的な評価に基づき、手すりの設置、段差解消等の住宅改修や、介護ベッド、歩行補助具等の福祉用具の活用をアドバイスいたします。退院前訪問は、これらの物理的な環境整備に有効ですが、それに加えて訪問看護やデイサービス等の利用も、提案、検討しています。様々な角度から充実した環境整備を行うことで、安心して在宅生活に戻っていただけるように努めています。退院後の在宅生活に不安等ございましたら、お気軽にご相談ください。



当院は、治す医療から、地域で治し支える医療を目指し、地域との連携・地域活動にも力を入れています。患者さん、ご家族はもちろん、地域住民の方や関係機関との繋がりも大切に考え、時には病院を飛び出し、地域で様々な活動を行っています。今回、その一部をご紹介しますと思います。

「担当者交流会」

医療福祉支援センター

入院期間の短縮化、家族構成の変化などに伴い、病院で行う治療だけでは、患者さんやご家族の療養生活を十分にサポートすることが難しくなっています。そのため、主に地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションの方々と、年に3回交流会を開催し、退院後の生活を支えて頂く関係機関の方々と連携を深めています。

交流会では「地域包括ケアシステムにおけるわたしの役割」「経済的な問題を抱えた患者さんの支援」など、毎回テーマを決めて意見交換や情報共有を行っています。どのようなことに困り解決するにはどうしたら良いか、それぞれのそのような立場で患者さんや家族と向き合っているのかなど、毎回活発な意見交換が行われています。地域と病院が風通しの良い関係を作ること、患者さんご家族の生活を「地域全体」で支えられるよう、これからも協力し合っていきたいと思えます。



「済生会富山病院出張講演」

医療福祉支援センター

地域住民の健康寿命の延伸と健康障害を抱える人々の生活の質向上を目指し、出張講演に取り組んでいます。地域の長寿会の皆様や地域包括支援センターから多くのご依頼をいただき、病院職員が公民館などに出向いて講演を行っています。これまで、「脳卒中ってどんな病気？脳卒中予防 10ヶ条！」「減塩の工夫」「腰痛体操を始めよう！」などのテーマで、各分野の専門家が、少しでもわかりやすく、生活に取り入れてもらえるような内容でお伝えしてきました。実技やクイズ形式を取り入れるなど工夫しながら行い、「家で続けたい」「もっと聞きたい」など嬉しい感想をいただいています。これからも講演を通して、住民の皆様と地域の関係機関との繋がりを大切にしていききたいと思えます。



連携室 VOICE

今年の4月から、地域医療連携室、医療福祉相談室に「入退院支援室」が加わり、名称が『医療福祉支援センター』に変わりました。今回は、ニューフェースの「入退院支援室」についてご紹介したいと思います！



たすきちゃん

見た目は3、4歳だけど、ドクターにインタビューもできるしっかりした女の子。結んだ「T」の形のヘアスタイルがトレードマークです。



入退院支援室の役割を教えてください。

対象は、入院を「予約」された患者さんです。今までは各科外来の看護師が診療の合間に入院の説明をしていましたが、専任の看護師が対応することで時間をかけて説明することが出来るようになりました。入院生活や入院中の治療過程をイメージでき、安心して治療を受けていただくことを目的としています。



入退院支援室
看護師長

黒原直美



具体的にはどのようなことをするのですか？

入院日が決定したら、正面玄関から入って右側にある入退院支援室にお越しいただきます。入院当日の持ち物や入院中に行われる治療・検査、入院生活について説明を行います。入院に際してご心配なこと、日常生活の状況、お薬やアレルギーの有無、介護保険の利用等についてお伺いします。



なぜ事前にお薬の確認が必要なのですか？

手術や検査の種類によっては、服用中の薬を休止する場合があります。知らずに服用していると、検査を受けられなかったり、副作用が出たりしてしまう場合があります。このような事を避けるため、確認は薬剤師が行っています。



最後に一言お願いします。

入院前に患者さんの状態を把握し、多職種と連携をとり、安心・安全な医療を提供できるよう努めていきます。必要に応じて薬剤師や栄養士、医療ソーシャルワーカーや事務員も対応しますので、心配なことやご希望などがあればどのようなことでもお気軽にお伝えください。



「Dr.の休日」第6回は坂東外科部長です。

日頃、診察室で出会うDr.とは、また違った一面が見られますよ!



病院旅行で休日を楽しませてもらいました。スマホも圏外の水中で3Dの休日は5年ぶりです。ダイビングは前後左右に加え上下の自由をも得ることができる3Dです。初めは久しぶりの慣れない上下移動にてこずりましたが、得ることができた自由度は、進化して陸に上がった人類が魚類や鳥類などとは違い原則的に前後左右にしか動けない2Dの日常に比べ圧倒的です。ちなみに外科手術で使用する内視鏡も最近では3Dに進化しています。



外科部長
坂東 正



分娩(お産)取扱い中止のお知らせ

当院では、諸般の事情により、分娩取扱いについて平成31年2月末をもって中止致します。

分娩以外の産婦人科診療、妊婦健診及び婦人科健診につきましては今後も継続して行います。

当院産科を利用される方々や各医療機関にはご不便・ご迷惑をお掛け致しますが、どうかご理解・ご協力の程宜しくお願い致します。



当院にご紹介いただく先生方へ……

医療福祉支援センターでは、ご紹介頂く患者さんの診察予約、検査予約を行っております。予約を行うことで、診療手続きが簡素化され、速やかな診察が可能となります。

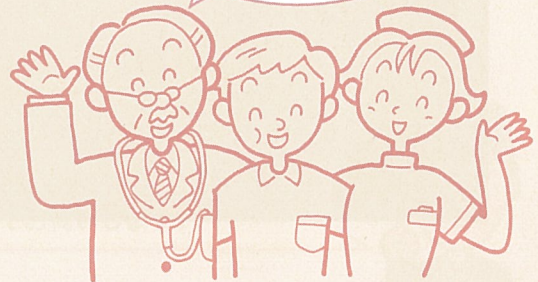
診察予約の流れ

- 1 医療福祉支援センターへお電話ください。**
(直接、診察申込書をFAXしていただいても結構です。)
- 2 医療福祉支援センターで直接予約をお取りします。**
※医療福祉支援センターで判断ができない場合は担当医師に確認が必要なため、相談の上、予約させていただきます。
- 3 診察申込書をFAXください。**
確認、登録の上、予約票をFAXいたしますので、患者さんへお渡しく下さい。

検査予約の流れ

- 1 医療福祉支援センターへお電話ください。**
- 2 医療福祉支援センターで直接予約をお取りします。**
- 3 診察申込書をFAXください。**
確認、登録の上、予約票をFAXいたしますので、患者さんへお渡しく下さい。

検査予約枠を
拡大しました。
お電話お待ちしております。



検査予約時間	CT	10:00~11:30	心臓CT
		13:30~16:30	月 14:00~15:00
RI	8:30~11:30	火 14:00~14:30	
	13:30~16:30	水 14:00~15:00	
		木 14:00~14:30	
MRI	13:30~16:30	金 14:00~15:00	
	※造影検査に限り、水曜日は予約不可となりますので、ご了承ください。		

富山県済生会富山病院 医療福祉支援センター

〒931-8533 富山市楠木33番地1 TEL 076-437-1120(直通) FAX 076-437-1131(直通)

理念 患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供

基本方針

1. 地域中核病院として、地域に密着した信頼される患者さん本位の医療の提供に努めます。
2. 済生会精神に基づく保健・医療・福祉の総合的なサービスを目指します。
3. 医療水準の向上に努め、良質で安全な医療を提供します。
4. 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療の提供に努めます。
5. 効率的で安定した経営基盤の確立に努めます。

患者さんの権利宣言

本院では“患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供”を基本理念に、患者の皆さまと協同して最良の医療を提供できるよう以下の権利を尊重します。

1. 個人としてその人格を尊重される権利
2. 質の高い医療を公平に受ける権利
3. 十分な情報を知り、説明を受ける権利
4. 選択の自由と自己決定する権利
5. プライバシーが守られる権利